

ビジュアル系

子ども・家族の

理解と支援

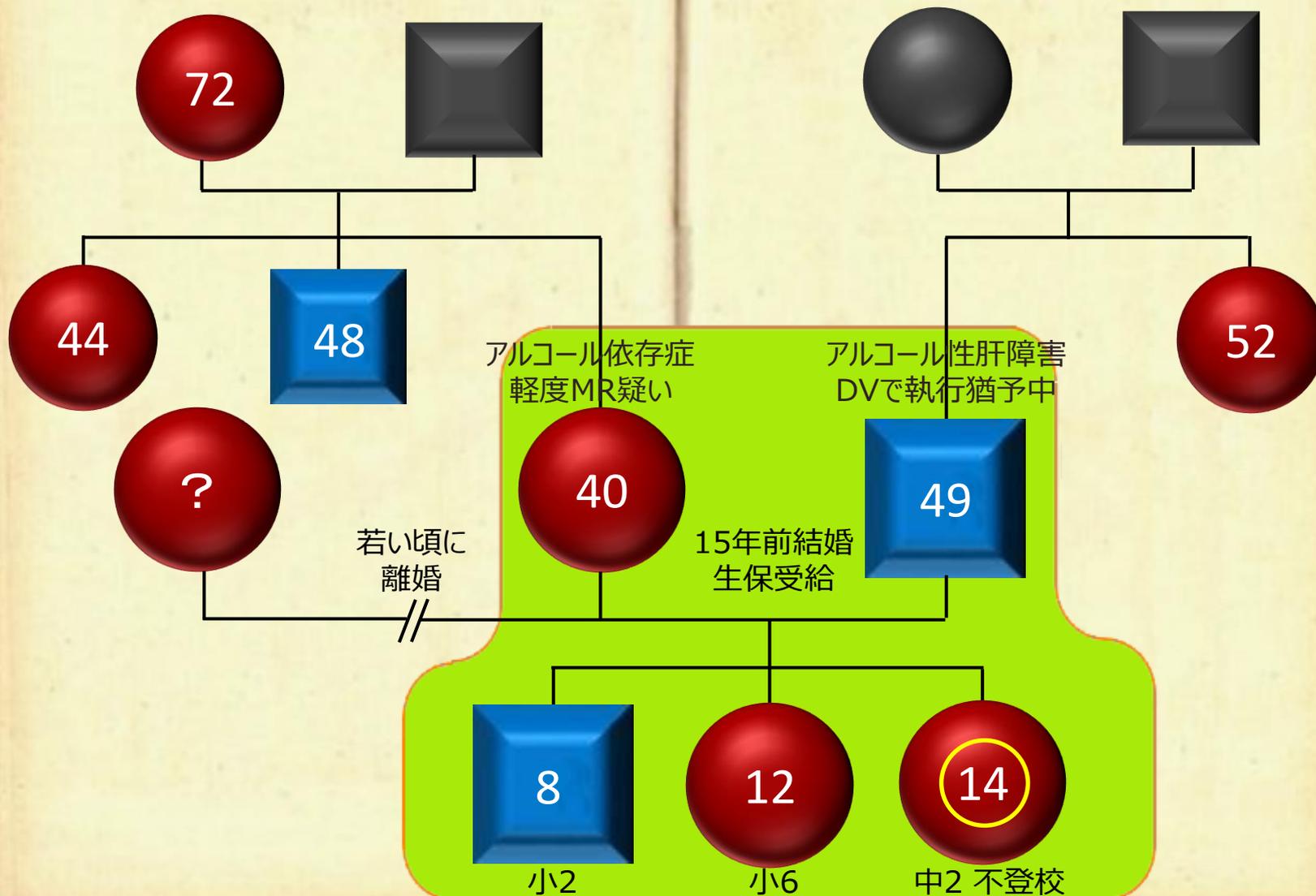
十三 仮想事例検討（前編）

いつまでも団編集長のマンガを使わせてもらうのは気が引けるので、今回はフォトシヨップに頑張ってもらった。

その遠い昔の顔で「究極のソーシャルデイスタンス会議」を作ってみた。



事例検討のための実在しない家族です。



両親について

母親は、三人兄弟の末っ子。幼少時に父親が死去し、その後、生保受給。高校を中退し、様々なアルバイトした。二五歳の頃、友人の紹介で働いていた飲み屋で現在の夫と知り合う。三人目が生まれ、手が回らなくなるにつれて酒量が増えた。最近は昼ごろに起きることも多く、家事も滞りがち。軽度の知的障害が疑われている。母方兄、姉はそれぞれ結婚しており、ほとんど行き来はない。

父親は、若い頃に離婚歴のある建具師。結婚後、妻と飲酒することが習慣化し、アルコール性肝障害になる。現在は断酒している。半年前、酔った妻に暴力をふるい、それを止める子どもたちを突きとばして逮捕・起訴され執行猶予中。

母親はよく離婚を口にするが、一人で子どもを育てる自信がなくその気はない。父親も、自分がいなければ子どもたちが困るからと離婚は考えていない。

子どもたちについて

長女は、中学2年。小学校時代は、担任から食事・洗濯・宿題等のサポートを受けて登校していた。成績はよかった。中学に入ると学校からの配慮はなく、いじめもあって休む日が増えていった。現在は週に一度、昼ごろにふれあい教室をのぞく。家事や妹たちの世話が行き届かない母親を嫌う。父親が家事をするときは、すすんで手伝っている。

小6次女・小2長男は、いずれも怠学傾向がある。身なり・宿題・登校など、父親に強く言われるとしぶしぶ従う。両親が口論すると必ず母親をかばう。ふたりとも通常学級で低学力、学校は様々な配慮をしている。

今回の経緯

母親の飲酒を父親が叱っているとき、長女が「いい加減にしてよ！」と叫び、それに父親が「学校を休むやつが偉そうに言うな」と怒鳴り返した。父親の態度に驚いた長女は、発作的にリストカットをして家を出た。しばらくして近くの交番に行き、家に帰りたくない、生きていても仕方がないと訴えて児相で保護された。

母親は、児相に呼び出されて事情を聞かれ、たうえに長女からは帰宅を拒まれ、飲酒に歯止めがきかなくなった。激昂した父親が手を上げそうになり、心配した次女が児相に電話。結局、子ども全員の一時保護となる。

話し合いの結果、母は断酒のために通院する、父親は暴言を控えると約束。次女・長男は家庭引き取りとなった。長女は迷ったあげく父親の提案を受け入れ、保護所で今後のことを考えることになった。

これからロールプレイを交えながら、みんなでこの家族のことを考えていきます。あらかじめ、班で面接担当2名と両親・子どもの役割を決めておいてください。

その後、講義でお話ししたジョインイングのポイント①～④を話し合ってください。のちほど、協議結果を発表してもらいます。

内容はこちらで整理して板書します。



① 解決努力のねぎらい
この状況でありながら、
父親は断酒し暴力を控
えている。

▼ 長女が家事をして父の
負担を減らしているから、
父親は怒りを抑えることが
できている。
▼ 母親がついに通院の決
断をした。
▼ とりあえず、家族はバ
ラバラにならずに頑
張っている。

②

長女の困りごと
(時間の関係で長女分
だけ)

▼ 酔った母が養育・家事
をちゃんとやらない。
▼ 父がそれをカバーして
いるけど、また以前の
ように暴力的にならな
いか心配。
▼ 学校のことや将来のこ
とを考えなければなら
ないが、そんな気にな
らない。

③ 家族に備わってい
る強み

▼ 母親は次女・長男に
頼られ、孤立を免れ
ている。

▼ 父親は長女の家事サ
ポートを受け、仕事
も続けている。

▼ 両親とも離婚は考え
ていない。

▼ 長女は父親の提案に
より、自分の今後を
考える機会を得た。

▼ 学校のサポートで、
次女・長男は安定し
ている。

▼ 外庄とか外部との軋
轢がほとんどない。

※ 家族のリスク

▼ 母の通院、父の暴力・
飲酒の自制が安定して
続くか。

▼ 長女の不登校に父親が
耐えられるか。

▼ 父親と長女のわだかま
りが修復できるか。

▼ 長女が家庭から離れた
ら、父親が孤立し抑制
が効かなくなるかも。

はい、ありがとうございました。
文字が小さくなりましたが、だいたい
こんな感じでしょうか。



では、ロールプレイでジョイ
ニングしましょう。時間があれ
ば、役割を変えてもいいです。
終わったら、各班の家族役の
方々に面接時の感想を発表して
もらいます。

講義でも触れたように、誰でも自分の“問題”理解のストーリーと、それに基づく解決努力にはこだわりがあります。それゆえ、あまり効果がないにもかかわらず延々と同じ解決策を続ける、ということが起こりがちです。

それが怒りをかきたてて、解決のための努力が逆に“問題”を維持強化することになってしまうわけです。



というわけで、この家族の解決努力のパターン化を探ってみましょう。それらのつながりを図にすると、問題維持システムがわかりやすくなります。

“問題”と解決行動のパターン

(※ 解決努力)

母親：朝から飲酒、行き届かない家事・養育。

↓
父親：家事をカバー[※]するほどに妻に怒り。

↓
長女：母親の飲酒や父親の暴言を制止[※]できず、怒りと無力感を抱える。

↓
両親：夫婦の会話で怒り[※]をぶつけ合い、長女にも向かう。

↓
長女：通じていたはずの父親からなじられて落ち込む。
いっそう登校意欲を失う。

図のようなパターンは特定の文脈（ストーリー）の中で起きています。というわけで、次に家族の問題理解の「文脈」をテーマを話し合ってください。時間の制限がありますので、これまでと同じく長女をとりあげましょう。

長女はどのような文脈で現状を“問題”としていますか。その根拠となっているのはどんなことでしょうか。そして、その文脈に沿ってどんな解決のための努力をしていますか？

また、ディスカッションのまとめを班ごとに報告していただきます。



お疲れ様でした。
みなさんの協議内
容をまとめてみま
した。



▽ (問題) 自分が無
力なこと。そのた
め、家・学校に居
場所がなく登校で
きない。

▽ (根拠) 母の飲酒
も父の暴言も止め
られない。逆に自
分の不登校で両親
ともストレスがた
まり、母の飲酒・
父のイライラにつ
ながっている。

▽ (対処) 家事や妹
たちの世話をして
いる。だけど、学
校を休んでいるか
らなにをしても評
価してもらえない。

今回は長女を取り上げましたが、他の家族もみんなそれぞれ自分なりの“問題”理解のストーリーをもっていることは言うまでもありません。

ではここで、休憩をはさみましよう。ここまでみなさんと家族について考えてきました。後半は、この家族支援について考えましよう。

カギは、連鎖を作り出している「文脈」です。2月までの休憩の間に忘れてしまわないようにしてください。

